

2 目標達成計画

事業所名：グループホームなかがわ

作成日：平成26年 5月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合ったものです。
また、課題等は、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を掲げております。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	今後、在宅で終末期を迎える高齢者が増えていくことが想定され、時にも高齢者比率の高い当地域にあって、当事業所の役割も大きくなっていくものと思われる。職員には死生観や看取りに関するスキルについて学習機会を増やしていくことが望まれる。	職員や入居者、家族、地域住民とともに死生観を含めた看取りについて考える。	①職員や入居者、家族、地域住民を対象に死生観を含めた看取りについて研修会を開催する。	6 か月
2	3	運営推進会議には地域交流の橋渡し役のほか、防犯、防災関連を駐在所や消防署など、多様な分野で活躍する地域の方々からお話を聞く機会を設けるなど一考されたい。	多様な分野で活動する地域の方々からお話を聞く機会を設け、交流の機会とするとともに、意見を聞きサービスの向上につなげる。	①婦人会や民生委員協議会の訪問等があるので、意見を聞く機会を設ける。 ②運営推進会議に防犯、防災関係者の出席を求め、連携を図る。	6 か月
3	2	地域との交流機会を設けるようにしているが、まだ少ないのではないかと。また、交流も行事が中心となっており、地域への情報提供や介護の拠点としての役割を發揮できていない。	地域の情報を提供できる拠点施設としての役割を果たす。	①地元の老人クラブなどとの連携を図り、定期的な交流が行えるようにする。 ②臨時的「認知症カフェ」を開設してみる。 ③広報の配布する範囲を広げて、質問コーナーなど設けて、住民の声を掲載する。 ④地域での要請を受けて出前講座を開催する。	6 か月
4	1	理念の共有を図っているが、その理念の実践にあたっては、職員全員ができていない。言葉遣いや接遇など日常的な動作について、職員間で実践できるようにしたい。	職員の自己覚知を促し、理念に基づいた生活支援や介護ができるようにする。 また、入居者へ寄り添ったケアとチームケアの統一を図り、理念を実践していく。	①職員が作る理念の見直しを行う。 ②接遇の研修会を開催する。 ③職員個々の目標設定や評価を行い、自己覚知を促す。	6 か月